

<高潮浸水予測の想定シナリオ>

・高潮に対する「**防護レベル**」及び「**減災レベル**」の検討を、6ケースの想定シナリオにより実施する。

「**防護レベル**」：発生頻度の高い高潮に対しては、できるだけ構造物で人命・財産を守りきる「防護」を目指す。

「**減災レベル**」：発生頻度は極めて低いに影響が甚大な最大クラスの高潮に対しては、最低限人命を守るという目標のもとに被害をできるだけ小さくする「減災」を目指す。

○高潮浸水予測の想定シナリオ

	CASE①	CASE②	CASE③	CASE④	CASE⑤	CASE⑥	備考
シナリオ	台風期の 平均的な満潮時 に、伊勢湾台風級の 巨大台風 が来襲した場合を想定	大潮の満潮時 に、伊勢湾台風級の 巨大台風 が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下(概ね 50年後)で、台風期の 平均的な満潮時 に、伊勢湾台風級の 巨大台風 が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下(概ね 100年後)で、台風期の 平均的な満潮時 に、伊勢湾台風級の 巨大台風 が来襲した場合を想定	台風期の 平均的な満潮時 に、室戸台風級の 超巨大台風 が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下(概ね 100年後)で、台風期の 平均的な満潮時 に、室戸台風級の 超巨大台風 が来襲した場合を想定	
想定台風規模	伊勢湾台風	伊勢湾台風	伊勢湾台風	伊勢湾台風			当該地域の既往最大台風 伊勢湾台風(940hPa)
					室戸台風級	室戸台風級	日本に上陸した既往最大台風 室戸台風(911hPa)級
想定台風コース	台風実績コース	台風実績コース	台風実績コース	台風実績コース	最悪コース	最悪コース	各ゾーンにおいて 最も潮位偏差が高くなるコース
計算潮位	台風期平均満潮位				台風期平均満潮位		台風期(7月~10月)の平均満潮位 (海岸堤防の現行の設計水準)
		朔望平均満潮位					朔(新月)および望(満月)の日から5日以内に現れる各月の最高満潮面の平均値
			台風期平均満潮位+0.24m				概ね50年後の海面上昇を考慮した潮位
				台風期平均満潮位+0.59m		台風期平均満潮位+0.59m	概ね100年後の海面上昇を考慮した潮位
検討目的	「 防護レベル 」の検討 (ハード整備)				「 減災レベル 」の検討 (ハード整備 + ソフト対策)		
	当面の整備レベル		中長期的整備レベル		短期的想定レベル	長期的想定レベル	

※想定台風規模については、実績の台風規模から次の2つの台風を対象とする。

・「**防護レベル**」の検討にあたっては、当該地域の既往最大台風である「伊勢湾台風」を想定台風として設定する。

・「**減災レベル**」の検討にあたっては、日本に上陸したの既往最大台風である「室戸台風」級を想定台風として設定する。

※愛知県沿岸部については、地形特性によりゾーニングを行い、「伊勢湾・衣浦湾」「三河湾」「表浜」の3ゾーンで検討を行うこととする。

※台風コースは、愛知県沿岸部に影響があった過去の台風実績コース(約60年間)の中で、伊勢湾台風規模の台風が来襲した場合に最も潮位偏差が高くなるコースとする。

なお、「**減災レベル**」の検討にあたっては、最も影響の大きい台風実績コースを平行移動し、最悪となるコース(最悪コース)について検討する。

※計算潮位については、中長期的整備レベルの検討を行うため、地球温暖化に伴う海面上昇についても考慮する。

[IPCC第4次報告におけるA1F1シナリオ(高度経済成長が継続、化石エネルギー重視)を想定]

※海面上昇は、主な海岸保全施設の構造となっているコンクリート構造物の耐用年数である概ね50年後と概ね100年後を想定する。

【用語説明】・IPCC [気候変動に関する政府間パネル(英語: Intergovernmental Panel on Climate Change、略称: IPCC)]

: 国際的な専門家をつくる地球温暖化についての科学的な研究の収集・整理のための政府間機構

<伊勢湾台風時の最大潮位及び潮位偏差>

	最大潮位	潮位偏差
名古屋港	T.P +3.89m	3.55m
豊橋(前芝)	T.P +3.04m	2.74m

※伊勢湾台風災害復興誌(昭和39年10月愛知県)